

平成25年度日本行政書士会連合会定時総会、

第33回日本行政書士政治連盟定期大会に参加して

標記の件、平成25年6月20日(木)から21日(金)の2日間、東京都港区「シェラトン都ホテル東京」において開催され、茨城会代議員として、小野村正徳会員(水戸支部)、新井毅会員(県西支部)、雨貝洋子会員(県南支部)、古川正美会員(県北支部)とともに参加させていただきました。全国各単位会からの代議員総数が217名(会員200名毎1名選出)に、執行部や傍聴者を含め、盛大な総会となりました。

1日目

定時総会は、第1号から第6号議案まで粛々と議事が進み、いよいよ第7号議案役員の改選。今回は、北山孝次氏(大阪会)と田後隆二氏(神奈川会)との現新一騎打ち。これまでの路線の完結を誓う現職と、内政外交ともに刷新を訴える新人との決戦は、118対99で現職の勝利。代議員が多めの単位会が一つ転べば逆転という僅差といえる結果となりました。これからの在任2年間に背水の陣を敷き、勝ち残る行政書士をめざす北山孝次会長に大いに期待するところです。

2日目

定時総会第7号議案の役員選任を終えた後、日政連定期大会となりました。こちらも第1号から第5号議案まで粛々と議事進行、第6号議案役員の選任となりました。こちらは選挙ではなく、選考委員会による選任を大会が承認するというスタイルをとるのですが、委員会の選任を大会はすんなりと承認とはならず、その可否数を確認するという異例の難産の末、中西豊氏(東京会)が選任されました。連合会と日政連は車の両輪ということばを信じ、更なる行政書士制度推進を切望いたします。

終わってみれば、連合会総会も日政連大会も既定路線の継承を選択したといえるでしょう。しかしながら新執行部は、反対票の大きさを真摯に受け止め、そこに耳をかたむけ、業務執行に誠実にあたっていただきたいものです。いわゆる「行政不服申し立ての代理権獲得」は未だ成立をみておらず、そこがゴールであるはずありません。

なお、定時総会・定期大会の議案書・質問書等の関係資料を閲覧希望の方は茨城県行政書士会事務局までご連絡下さい。

嶋田 広一(鹿行支部)

